リハビリテーション部
Rehabilitation Department

詳細はこちら

部長
てらい　ひでとみ
寺井　秀富



専門
脊椎脊髄外科、脊柱変形、側弯症

スタッフ

いけぶち　みつひこ
副部長　**池渕　充彦**
【専門】人工関節、リハビリテーション一般

かとう　りょういち
保健副主幹 **加藤　良一**
【専門】理学療法士

きのう　まさし
主査　**喜納　政史**
【専門】理学療法士

ふじもと　よりこ
主査　**藤本　依子**
【専門】言語聴覚士

業務内容・特徴

リハビリテーション科専門医の診察に基づいて個々の患者さんの障害に応じた治療プログラムを作成し理学療法や作業療法、摂食･嚥下療法、言語療法、聴覚検査各種を行っています。

理学療法では座位・立位・移動などの日常生活に必要な基本的動作能力の改善をはかっています。作業療法では日常生活を送るのに必要な応用的動作能力の獲得を目指しています。摂食・嚥下療法では食べるという咀嚼嚥下機能の回復を促しています。また、耳鼻咽喉科外来にて小児言語発達遅滞や構音障害に対して、評価・助言指導、言語訓練を行い言語発達、学習面などをサポートしています。

当科は脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅰ）､運動器リハビリテーション（Ⅰ）､呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）、心大血管リハビリテーション（Ⅰ）、がんのリハビリテーションの施設基準承認を受けており、脳および脊髄の中枢神経疾患、神経筋疾患、四肢や脊椎などの骨関節疾患、各種の呼吸器疾患や胸部外科手術に伴う呼吸障害、心疾患に加えて、救急医療や集中治療を要する重症患者さん、血液内科移植患者さんなど大学病院特有の特殊な疾患の急性期リハビリテーションを実施しています。

取り組み

部内勉強会や OJT、各種研修会、学会参加を通じて専門性の向上に努めるとともに、段階的な能力評価を行い、スタッフの成長を促す体制づくりに尽力いたします。

チーム医療へ積極的に参画し、専門性を活かした連携を通じて、質の高い医療の提供に貢献してまいります。

内視鏡センター
Endoscopy Center

詳細はこちら

センター長
ふじわら　やすひろ
藤原　靖弘



専門
上部消化管

スタッフ

ふくなが　しゅうせい
副センター長 **福永　周生**
【専門】上・下部消化管腫瘍（内視鏡治療）

業務内容・特徴

上部・下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、小腸カプセル内視鏡・バルーン内視鏡、気管支鏡を用いた診療を行っています。上部・下部消化管、胆膵領域、小腸領域、呼吸器領域において、腫瘍性病変、炎症性腸疾患をはじめとする多様な疾患に対し、診断から治療まで一貫した内視鏡診療を提供しており、特定機能病院として高度かつ専門的な医療を担っています。とりわけ、食道・胃・大腸の早期がんに対する内視鏡的切除術、消化管狭窄に対する拡張術、超音波内視鏡を用いた穿刺診断、内視鏡的逆行性膵胆管造影やインターベンショナルな胆膵内視鏡治療は年々増加しており、高度内視鏡治療の中核を担っています。また、通院中救急患者さんの積極的な受け入れにより、消化管出血に対する内視鏡的止血術にも迅速に対応しています。診療体制としては、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科より、臓器別・専門領域ごとに複数の医師が、院内外からの紹介患者さんに対して質の高い医療を提供しています。さらに、専属の看護師、臨床工学技士、診療放射線技師と連携したチーム医療により、安全で効率的な内視鏡診療体制を構築しています。2024 年 9 月には 2 度目の全面改装を実施し、最新設備の導入のみならず、鎮静下内視鏡検査や X 線透視併用内視鏡検査の増加に対応するため、リカバリールームおよび透視内視鏡ブースの拡張・増設を行い、患者さんの安全性と快適性のさらなる向上を図っています。

主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5980 件	ESD・上部 EMR	427 件
胃食道静脈瘤治療	97 件	イレウス管･消化管ステント留置術	73 件
ERCP・EST	550 件	下部消化管内視鏡検査	2240 件
小腸バルーン内視鏡検査	230 件	小腸・大腸カプセル内視鏡検査	47 件
EUS・FNA	850 件	上部・下部バルーン拡張術	264 件
大腸ポリペクトミー・EMR	535 件	POEM（内視鏡的筋層切開術）	69 件
内視鏡的止血術	132 件	内視鏡的逆流防止粘膜切除術	5 件
気管支鏡	605 件		